

文化

編集局からお知らせ

通常、下旬号は2ページともスポーツ面となりますが、新型コロナウイルスの影響で5月から休刊となる状況を受け、本来5月上旬号(4ページ版)に掲載予定だった文化面が、今回2面に掲載となりました。



久喜太東中『ゲキを止めるな!』

コロナでも 中学演劇の魅力伝えたい

3月26日と27日に神奈川県立青少年センターで行われる予定だった第9回関東中学校演劇発表会・2020関東中学校演劇コンクールは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になった。現在、埼玉代表の1校だった久喜太東中ゲキ部は、上演予定だった作品「ゲキを止めるな!」(顧問の斉藤俊雄教諭作)の公開の場を模索している。今年はお出張公演の予定を含め中止が相次ぐ状況だが、斉藤教諭は「(現3年生の)卒業までには一般向けに作品を公開できる場を設けたい。今回は全国大会出場の実現できなくなりましたが、劇は止まらずに動き続けていく」と意気込みを語る。今作に込めた想いを聞いた。

大会中止の現状に重なった

部のドラマ。内藤璃子部長「ゲキを止めるな!」は心無い観客の振る舞いで止まってしまった劇を、再び上演しようと奮闘する演劇部のドラマ。内藤璃子部長「ゲキを止めるな!」は心無い観客の振る舞いで止まってしまった劇を、再び上演しようと奮闘する演劇部のドラマ。内藤璃子部長「ゲキを止めるな!」は心無い観客の振る舞いで止まってしまった劇を、再び上演しようと奮闘する演劇部のドラマ。

廃部増える 中学演劇

「魅力伝えたい」

タイトルのベースにあるのは、低予算ながら徐々に上映館を増やした映画「カメラを止めるな!」(上田慎一郎監督)。「廃部が増える中学演劇の魅力」を、低予算で伝えていきたい。という思いを重ねた斉藤教諭は各地でワークショップや講演会を開き、中学演劇を盛り上げる活動に奔走する。参加校は部員数を3倍に増やしたり、関東大会連続出場を果たしたりするなど実績を

久喜太東中演劇部の部員たち。「ゲキを止めるな!」では普段の稽古場の出来事を盛り込んだ



「ゲキを止めるな!」のラストを飾るダンスシーン(久喜太東中の斉藤俊雄教諭提供)

演劇に込める想い

久喜太東中 斉藤俊雄教諭の話

「ゲキを止めるな!」は私たちが現在活動の中心としている「SHOWGEEKI(ショウゲキ)」を発展させた劇です。「ショウゲキ」とは、①小さな劇が集まり、全体的にも小さな劇の「小劇」、②コントの要素を取り入れた「笑劇」、③ダンスや歌・パントマイムなどのパフォーマンスが集まった「Showの劇」、そして、④観終えた後に「衝撃がある劇」という四つの意味があり、小学校や人権集会、公民館でのお年寄りの集まりなどで上演しています。目指しているのは「たくさんの人に笑顔を届ける」ということ。その延長線上にある今作では、17人の部員全員がダンスを踊り、歌声を響かせることができました。全国大会は中止となり、出場の実現できなくなりましたが、劇は止まらずに動き続けていきます。